■世界：2030年までに1億5,000万kWの蓄電池が必要

2015年6月16日付業界紙によると、国際再生可能エネルギー機関（IRENA）は「再生可能エネルギーと電力貯蔵」と題した報告書を発行した。この報告書は、気候変動の影響を回避し、持続可能なエネルギーへの転換と成長の目標を推進するIRENAの「リマップ2030プログラム」の活動の一部である。同プログラムは、2030年までに全エネルギーに占める再生可能エネルギーの比率を倍増させるという目標を掲げている。「リマップ2030プログラムでは、各国の再生可能エネルギー計画は、世界の年間発電電力量における再生可能エネルギーの比率を2014年の22%から2030年には27%まで増やすことを示唆している」と、報告書は説明している。IRENAの目標は、2030年までにエネルギー供給量の45%を再生可能エネルギーとすることであり、これは蓄電池1億5,000万kWと、揚水発電3億2,500万kW分が加わることを意味する。IRENAは、この目標のためには蓄電池が優先されなければならないとしている。報告書は、優先5分野にわたるアクション14項目を概説し、電力貯蔵に関する政策を推進するために政府と産業界が協調する必要性を強調している。優先5分野は、(1) 島嶼や辺境地での再生可能エネルギーの普及を支援する電力貯蔵、(2) 屋上設置型太陽光発電システムの普及率の高い国々での自家消費する需要家宅に設置する蓄電池、(3) 電力系統に制約のある国向けの発電機および系統設置型蓄電装置、(4) 電源を再生可能エネルギーに移行する準備をする国に対するシステム解析ツール、(5) 送配電系統に設置される電力貯蔵システム。ロードマップの目標を設定するにあたり、IRENAは、4つのワークショップを開催し、50カ国200人以上の蓄電専門家に聞きとり調査を行った。